



長かった夏休みもあつという間におわり、ようやく朝晩が涼しく感じられるようになってきました。どこからともなく虫の声が聞こえてきます。日本人は昔から虫の音を風情あるものとして味わってきました。みなさんは何種類の虫の声を聞き分けられますか？一度耳をすませて虫の音を聞いてみましょう。



澄む月や	鬚をたてたる	きりぎりす	榎本其角
いま	なにおおかなげね	もう駄目だといふふう	八木重吉
虫が鳴いてる			
こほろぎの	鳴く音やさしとおもふにも	天体のひとつ	地球のうかぶ
		上田三四一	
馬追虫の	鬚のそよりに	来る秋は	
	まなこを閉ぢて	想ひ見るべし	長塚節

・・・虫に関するうたはこのほかにもたくさんあります・・・

賢治忌



宮沢 賢治

1896-1933

詩人、童話作家、農学者、思想家。岩手県生まれ。少年時代から植物・鉱物採集に熱中し、成績優秀で作文に優れていました。旧制盛岡中学校に入り、このころから短歌を作りはじめました。中学を卒業した賢治は盛岡高等農林学校(いまの岩手大学)に入学、在学中に童話を書きはじめました。

晩年は過労のため病気がちの生活を送り、1933年9月21日急性肺炎のため38歳で亡くなりました。代表作に『雨二モマケズ』『銀河鉄道の夜』などがあります。

新刊

### 君色パレット ちょっと気になるあの人

-多様性をみつめるショートストーリー- 913キ1-1

戸森しるこ ひこ・田中 吉田桃子 魚住直子：著

海辺の町の中学生のさわやかなお話かと思いきや複雑な心情を持つ男の子達のショートストーリー。衝撃の事実を作文でカミングアウトし、しかもその作文がコンクールで高く評価され…。多様性をテーマに様々な視点から描くアンソロジー。

### 大人も知らない？ふしぎ現象事典 続 049オ2

「ふしぎ現象」研究会

運動会で勝ったら「自分のおかげ！」と言うのに負けると人のせいにするクラスメイトがいる…なんで？それは、「自己奉仕バイアス」→成功した時は自分の実力だと思い、失敗した時は自分以外の人や環境が原因だと考えることをいいます。バイアスとは「データのかたより」や「先入観」という意味です。この「自己奉仕バイアス」の強い人は周囲からの信頼を失う危険があるので注意が必要です。…など、ふしぎな現象を言葉にして納得させてくれる一冊。

このほかにも夏休み中に新しい本がたくさん届きました。ぜひ図書館に来て自分の目で確かめてみてください。

夏休み前に借りた本は、9月9日(月)までに返却してくださいね。